

京都大学「教育方法論」2011年度 試験問題

(試験時間 80分)

以下の問1から問3に答えなさい。

なお、別紙の解答用紙には、各問で選択した番号・記号を必ず記載すること。

問1 以下の用語の中から5つ選択し、それぞれ100~200字程度で説明しなさい。 (50点)

- | | |
|-------------|-------------|
| ① 目標に準拠した評価 | ② 教科書 |
| ③ 5段階教授法 | ④ 仮説実験授業 |
| ⑤ 習熟度別学級編制 | ⑥ プログラム学習 |
| ⑦ 完全習得学習 | ⑧ 直観教授 |
| ⑨ オープン・スクール | ⑩ ポートフォリオ評価 |
| ⑪ バズ学習 | ⑫ プロジェクト法 |

問2 A群の(1)~(4)にもっとも関係する人物・事柄を、B群からそれぞれ2つずつ選びなさい。 (32点)

A群

- (1) "any subject can be taught effectively in some intellectually form to any child at any stage of development"
- (2) 「児童が中心であり、この中心のまわりに教育上の営みが組織されるのである」
- (3) 「あらゆる人にあらゆることを教授する普遍的な技術を提示する」
- (4) 「わたしは、教授のない教育というものの存在は認めないし、また逆に、教育しないいかなる教授も認めない」

B群

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|------------------|
| (a) デューイ | (b) コメニウス | (c) ブルーナー | (d) ヘルバルト |
| (e) 文部科学省 | (f) 興味の多方向性 | (g) 『世界図絵』 | (h) PISA |
| (i) 発見学習 | (j) 知識基盤社会 | (k) CAI | (l) 作業(オキュペーション) |

(裏に続く ↓)

(↓ 表から続く)

問3 以下の2問の中から1つを選択し、300字程度で答えなさい。

(18点)

(1) 次の記事を読み、授業や生徒たちの学びの様子が日本の学校における授業や学びのあり方についてのどのような課題を投げかけているとあなたは考えるか、2点にまとめ述べなさい。

経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査(PISA)で「世界一」の評価を受けるフィンランドの首都、ヘルシンキ市中心部に近い中学校。ある授業では、先生が練習問題の答えを説明中だというのに、教室後方の女子が手招きすると、男子が席を立って近寄った。先生は何も言わない。このクラスではわからないところがあったら、まずは生徒同士が教えることになっている。

「一人ひとりが何ができて何ができないのかを自覚することが大事。出来ない子を教えれば、より理解を深められる」と先生。同国では標準的な考え方だ。

学校や生徒をテストでランク付けする仕組みがない同国では、高校進学に影響する中学3年の成績を除き、成績をつけるための明確な基準もない。数学が得意だというAくんは「競争ではなく、自分がやりたくて、できるようになりたいから勉強している。数学が苦手な友達を助けてあげるのはいいこと」と話す。

(設問上、一部省略、修正。出所：<http://www.asahi.com/edu/news/TKY200412190095.html>)

(2) 林竹二(※)は、授業における教師、子ども、教科書・教材の関係・役割について、以下のように述べている。林の考えに対するあなたの見解を述べなさい。

「教科書を教えるのが教師の仕事であった時代には、教科書は神聖であった。だが、教科書で教えるのが教師の任務だということになると、教科書、教材は道具であり手段にすぎない。教師は子どもの深く蔵した宝を掘り出すために、最も適切な道具を選択する。教材は、この道具なのです。教師は十分にこの道具を駆使して、子どものなかに深くしまいこまれている力を引き出す作業に従事しなければならない。これが授業で、教師の本来の仕事なのです。」

(林竹二『林竹二著作集 第七巻 授業の成立』筑摩書房、1983年、235頁)

※林竹二：1906-1985、教育哲学者、宮城教育大学第2代学長。『授業・人間について』『教育の根底にあるもの』など著作多数。元小学校教員で『兎の眼』『太陽の子』等の作家・灰谷健次郎との対談集『対談 教えることと学ぶこと』(小学館)もある。

(以上、お疲れ様。)